

子どもたちがいつでも誰でもいきいきと遊べる 毎日の遊び場づくりを目指して

仁川小学校の保護者仲間3人から始まった放課後の遊び場づくりは、現在、市内の8小学校に広がっています。平成28年度（2016年度）は、約200人のボランティアがかかわり、遊び場を合計641回開催し、延べ参加人数は44,000人を超えました。NPO法人放課後遊ぼう会代表の足立典子さんにお話を伺いました。

集団遊びが大事！

今、子どもたちは習い事などに忙しく、のびのびと遊べる場所も限られ、昔のように遊べなくなっている。我が子もなかなか友達と遊ばず、運よく約束できてもどちらかの家でゲームなどをして遊ぶしかない、という状況であった。しかし、友達との毎日の豊かな遊びは、子どもたちが心も体もたくましく成長する上で重要な役割を果たしてきた。今の子どもたちにも、そこへ行けば必ず誰かが遊んでいて一緒に遊べる、そんな遊び場が必要だと考えた。

3人の保護者から始まった

平成13年（2001年）、同じ想いの仁川小学校の保護者仲間と2人で、PTA総会で遊び場づくりを提案。その結果、保護者仲間が一人増え、3人でボランティアグループ「放課後遊ぼう会」を設立し、仁川小学校において週3回程度、放課後の遊び場づくりが始まった。学校は場所を貸していただき、PTAは毎月の保護者向けお便りの印刷に協力していただき、ボランティア活動センターからの助成金で遊具や文房具を買い、活動を始めることができた。市役所と児童館に、何か助けていただけないか問い合わせたが、当時は適用できる事業や制度はなかった。

3人から8校200人のつながりへ

平成15年度（2003年度）に、兵庫県が始めた「子どもの冒険ひろばパイロット事業」を委託され（平成17年度（2005年度）からは補助事業）、仁川小学校において、専門職のプレイリーダーのいる毎日の遊び場づくりが実現した。同時に、宝塚市PTA協議会を通じて各校のPTAに遊び場づくりを呼びかけたところ、数校のPTAから依頼があり、遊び場を開催した。そこで多くの子どもたちがいきいきと遊ぶ様子を見て、各校の保護者有志

が校区毎にグループを作り、放課後遊ぼう会のプレイリーダーと協力して遊び場づくりを始め、活動が広がっていった。

平成19年度（2007年度）に、宝塚市で「放課後子ども教室」という事業が始まり、各校で活動していたグループが校区ごとに実行委員会を組織し、市から委託を受け、遊び場づくりを続けた。また、各校においてPTAと相談を続けた結果、PTAが深くかかわる学校が増えている。

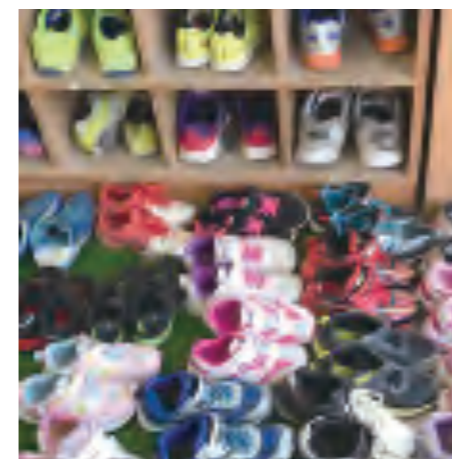
仁川小学校区では、まちづくり協議会やスポーツクラブ21の活動にも積極的に参加した。その中で、地域の方に、子どもたちの現状や活動内容を知っていただく努力を続け、徐々に理解者が増えていった。仁川小学校に新校舎ができた際に、仁川まちづくり協議会が管理運営するコミュニティ室を活動拠点として使わせていただけることになった。他にも、まちづくり協議会からは助成金もいただき、スポーツクラブ21仁川からは運動場の倉庫を使わせていただき、自治会の協力を得て地域の方から寄付をいただけるようになった。

平成22年（2010年）に各校の有志でNPO法人放課後遊ぼう会を設立してからは、NPOでプレイリーダーを雇用し、県や市から事業委託を受けながら、各校区の実行委員会と協力して遊び場づくりを続けている。保護者からの前向きなご意見が大変励みになっている。

課題は、受益者負担を求められない事業であり、市から支援を受けているが現状では足りないこと、財源不足のためプレイリーダー確保が難しいこと、安全管理に努めているが関係機関との安全基準に若干の相違があり調整が必要なことが挙げられる。これからも課題解決に向け努力し、1回でも多く遊び場を開催していきたい。



子どもたちが自分の責任で自由に遊べる場



認定NPO法人放課後遊ぼう会

〒665-0074 宝塚市仁川台 289-1

電話・FAX 0798-54-3956

メール hokago-asoboukai@gaia.eonet.ne.jp

HP <http://www.eonet.ne.jp/~hokagoasoboukai/>